

Q.04 内部割れは含水率何%になると発生するの？

A.04 正角の場合、含水率30%前後から内部割れの危険が生じます。

高温セット処理を行った正角は、そのまま高温乾燥（100℃以上の乾燥）を続けると内部割れの発生の危険が大きくなります。

図はスギ心持ち無背割り正角を高温セット処理を用いて乾燥した時の内部割れ発生状況です。

高温セット+高温乾燥では、多くの内部割れが発生し、内部割れの発生が確認される時の含水率はおよそ30%前後であることがわかります。（まれにこれ以上の含水率でも発生する例もあります。）

また、内部割れは、含水率10%を切るあたりから急激に増加しているのも注目すべき点です。

これに対して高温セット+中温乾燥や高温セット+高周波減圧乾燥では、低含水率域であっても内部割れの発生が非常に少なくなっているのがわかります。これは、高温セット処理後の乾燥をいずれの乾燥でも100℃以下としていることが影響していると考えられます。



写真 スギ材に発生した様々な内部割れ

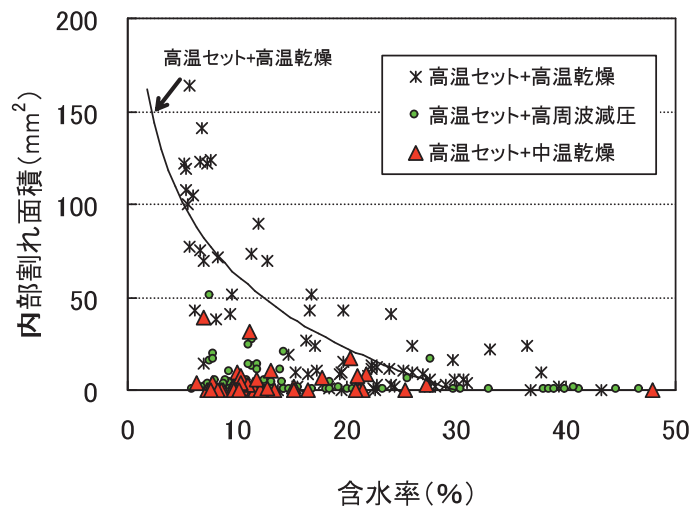


図 仕上がり含水率と内部割れとの関係（スギ）⁶⁻¹⁾